

GAP認証のその先 ～畜産専攻 GAP チームの取組～

生物生産科動物科学コース畜産専攻ではGAPチームを発足し、JGAP（畜産）の認証に向けた取り組みを行っています。私たちがGAPという言葉初めて聞いたのは2学期のはじめ、畜産担当の先生から「一緒にJGAP認証に向けて取り組んでみないか」と声をかけていただいた時でした。「GAPっていったい何？」と思ったのが正直な気持ちでした。GAPについての知識が0の状態からスタートし、何が分からないのかが分からない状態だったため、そもそもGAPとは何なのかを理解する必要がありました。

しかし、初めて先生からJGAP認証について講義を受けた際も何を言っているのか全く意味が分からず、自分たちはこれからやっていけるのかと不安な気持ちになりました。それに加えて書類の膨大な情報量と専門用語の数々に圧倒され、知らない単語に難しい法律の名前、わからないことばかりで何度も挫折しそうになりました。それでも、寮で先生を含めた5人で睡魔と闘いながら夜遅くまで作業していたこともあり、自己点検をしていく中で何が取り組めていないのか、どれが当てはまっていないかなど、少しずつですがGAPのシステムが理解できるようになり、実は今まで私たちが日々の一般管理で行っていることを少し細かく確認しているだけなのだ気づくことができました。

最近になって取組を通して感じていることは、不安よりも達成感や充実感を感じることのほうが多いということです。作成した書類の束を一冊のファイルに綴ったときは言いようのない達成感を感じ、自分が取り組んできたことを誇りに感じました。また、GAPの取り組みを始めたことにより、今までの牛舎での行動を見直すことができたり、新しいことを知ることができたりと、とても勉強になりました。そして何よりも、GAPを通して仲間とのきずなが深まったように感じます。GAPに取り組むようになってからというもの、朝も放課後も毎日牛舎へ通い、帰寮時間ギリギリまで話し合いをしたり作業をしたりしていました。JGAPの資料が一つずつ終わっていく喜び、仲間と協力して1つのことに取り組む充実感、これらはGAPに取り組んでいなかったら感じることができなかったものです。

迎えた10月30日の現地審査の日は、今まで経験したことのない緊張の時間が続きました。最終会議で審査員の先生方から指摘された是正項目は必須項目、重要項目併せて5つ。翌日からすぐに是正処置に取りかかり、晴れて11月28日付で北陸初のJGAP（畜産）認証農場となりました。しかし、認証取得はゴールではなくスタートにすぎません。認証を継続し、後輩にこの取り組みを引き継いでもらうためには、誰が見てもわかりやすい様式に作り直し続ける必要があります。また、私たちの取り組みを皮切りに、学校のすべてのコースで各種のGAP・HACCP・ISOなどが取得できるような取り組みを行っていきたいです。10月30日に行われたJGAPの初回認証審査を終えた私たちは、GAPへの知識が深まり、かみ砕けばもっと簡単にできるのではないかと感じるようになりました。

そこで今後は、GAPの内容を簡略化した中央農業高校版のGAP、略して『CGAP』の作成を急ぎ、県内の畜産農家へCGAPを通したGAP認証の推進、小中学生を対象とした農業やGAPについての出前授業などのアンバサダー活動を行うことで、広く県民全体にGAPという言葉浸透させていくことを目標としました。将来的には、これを機に県民の農業への興味、関心が向上し、近年減少気味の農業従事者を増やしていけるような取り組みを考え実行していきたいと考えています。

(中央農業高等学校 畜産専攻 GAP チーム)



JGAP（畜産）認証書



畜産専攻 GAP チーム